

## 特別支援教育に関するセミナーが開催されました 2017年12月13日



平成29年12月9日（土）、福岡こどもたちのセーフティネット研究会主催の「特別支援に関するセミナー」が、下記の要項で九州産業大学で開催され、教育関係者や保護者など約450人が参加しました。

### 記

日時：12月9日（土）9時20分～17時00分

場所：九州産業大学1号館2階S201番教室および各分科会場

対象者：特別支援教育に関心のある、教育関係者および関係諸機関、  
保護者、学生など誰でもご参加できます。

参加費：無料

問い合わせ先：九州産業大学教務部教務課 092-673-5593（担当：松尾）

このセミナーは「特別支援教育」という、幅広いテーマについて、情報を共有し、学校教育をはじめ、家庭、福祉、労働、医療、社会など広範囲で連携することを目的とするもので、九産大での開催は、今年で4年目です。このセミナーは本会の会長である木村素也が第2回から実行副委員長を務め、会の運営等に関わってきました。第2回の時には木村会長が講演を行い志賀代表が実践発表を行いました。また第4回には不登校分科会のパネリストとして木村会長が参加しました。今回は第5分科会の「関係諸機関との連携」として志賀代表が「不登校の保護者同士の語り合いの場です。アドバイザーの方も交えて悩みを分かち合っています。子どもの進路のことなどもアドバイスをもらっています。」など「ぼちぼちの会」の実践報告を行いました。

基調講演では、筑波大学大学院人間総合科学研究科 斎藤環教授【写真：左】が、「“コミュ障”の時代 発達障害・不登校・ひきこもり」と題して、「現代は、コミュニケーション偏重主義に陥っており、人間の価値を“コミュ力”だけで判断する間違っただ対人評価が蔓延している」と分析し、不登校やひきこもりが増えている現状を説明しました。また、SOC（※1）やレジリエンス（※2）を育て、ストレスに適応する力を醸成する重要性を指摘し、参加者へ「安易に発達障害と判断したり、『相手を治そう、変えよう』という意識は捨て、継続して『対話』し続けましょう」と呼びかけました。

続く分科会では、学習支援や就労支援など5つのテーマに分かれ、それぞれ事例報告やパネルディスカッションを行い、問題提起や情報を共有しました。

障がい者就労支援施設で働く参加者は、「普段は目の前の業務に一生懸命になっているため、このような機会で見聞を広げる大切さを再認識しました」とセミナーの意義を語りました。

※1 SOC・・・「Sense of coherence」の略。様々な出来事を一貫して捉える感覚。

※2 レジリエンス・・・逆境に対して、柔軟に対応し乗り越える力。適応する力。

**講師：筑波大学大学院人間科学総合研究科教授 斎藤 環 先生 プロフィール**

1961年、岩手県生まれ。1990年、筑波大学医学専門学群 環境生態学 卒業。医学博士。爽風会佐々木病院精神科診療部長（1987年より勤務）を経て、2013年より筑波大学医学医療系社会精神保健学教授。また、青少年健康センターで「実践的ひきこもり講座」ならびに「ひきこもり家族会」を主宰。

専門は思春期・青年期の精神病理、および病跡学。著書に「文脈病（青土社）」「社会的ひきこもり（PHP研究所）」「ひきこもり救出マニュアル（PHP研究所）」「ひきこもり文化論（紀伊國屋書店）」「生き延びるためのラカン（バジリコ）」「ひきこもりはなぜ『治る』のか？（中央法規出版）」「ひきこもりのライフプラン」（畠中雅子との共著）岩波書店「オープンダイアログとは何か」（医学書院）